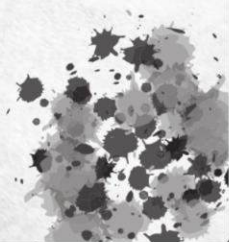




ジェレミ・ベンサム

～ 功利主義の創始者 ～

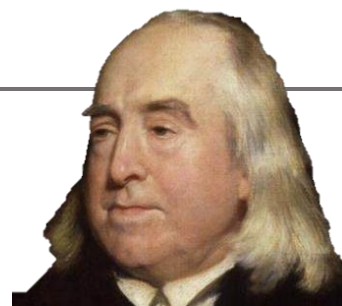


時代背景

産業革命に成功したイギリスは世界一の資本主義国家へと躍進していた。資本家が利潤追求に必死になる中、個人の利益や幸福を積極的に追求することを正当化し、それらが社会全体の幸福へ繋がる理論を展開した。この考え方を^[1]]という。個人の自由を最大限に認め、行為の結果を重視するものであった。

偉人の生涯

Bentham (1748～1832) イギリス 哲学者・法学者



主 著 『道徳及び立法の諸原理序説』『政府論断片』

Keyword ^[2]]「快樂計算」「制裁(サンクション)」

生 涯イギリスに法律家の子として生まれる。裕福な家庭で生まれた彼は家の本を読み漁り、神童と呼ばれた。若干 15 歳で名門オックスフォード大学で文学士を取得し、3 年後には文学修士の称号も取得。さらに 21 歳で弁護士の資格を取得するなど、超優秀であったと知られている。しかし、イギリスの王座裁判所の腐敗を見た彼は、判事の主観が入りやすい判例法の伝統に疑問を持ち、より客観的な立法の原理が必要と考えた。法律を実践するのではなく、法律を作成する側になることを決め、人生を法律への批判と改良に捧げた。

ベンサムは、より多くの快樂が満たされた社会を最も幸福であると考えた。彼の功利主義の考えは、平等が重視され、当時刑罰の対象であった^[3]]を正当化したり、^[4]]の拡大運動に尽力するなど、政治改革に努めた人物であった。また、彼は生涯、医学の発展に寄与したいと強く願っていた。当時の人にとっては絶対に有り得ない行いだった死後解剖を、彼は積極的に奨励した。

理由は**功利主義を貫いた男**だったから。彼は、人間は死体と化す事で幸福度の概念も関係がなくなるとした。むしろ解剖によって医学が前進し、今苦しんでいる人や医療に貢献できれば、人類全体の幸福度は上昇すると結論付けたのだ。まさに、功利主義の正義。

今では一部復元されながらも、ロンドン大学に彼のミイラが保存されており、一般人でも見る事が可能である。

思想概要 ベンサムは、善悪の判断基準を「快樂をもたらす行為を善、不幸を生み出すものを悪」と考えた。

^[5]]によって快樂を計算し、より快樂の多い行為をすべきと考えた。個人の快樂が自己中心的になりすぎると、社会に悪影響を与える場合もあるので、個人の快樂が社会全体の幸福に一致するように、^[6]] (サンクション) という外的強制力を必要とした。その上で、より多くの快樂が満たされた社会を最も幸福であると考え、これを^[7]]といい、選挙権拡大運動の理論的根拠になったと言われる。彼は功利主義を極限までつきつめ、平等を求め続けた人物であるといえる。

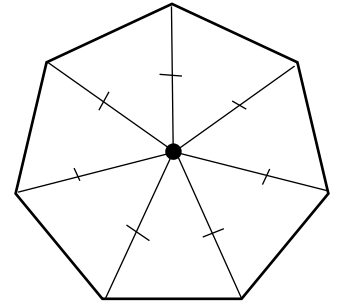
偉人の功績・思想

★**快樂計算** ある行為が個人に対して生み出す快樂・苦痛の価値を、7つの基準で算出する

Work  **ベンサムの快樂計算をやってみよう！！それぞれ10点満点とする。**

あなたの快樂を感じるもの（こと）→

- ①強度・・・快樂の強さ
- ②持続性・・・どれだけ長続きするか
- ③確実性・・・どれだけ確実に達成できるか
- ④遠近性・・・どれだけ近い将来訪れるか
- ⑤多産性・・・別の快樂を連鎖的に生み出すか
- ⑥純粹性・・・他の苦しみが混じっていないか
- ⑦適用範囲・・・どれだけ多くの人に影響を与えるか



あなたの快樂は・・・ 点

★**制裁(サンクション)** 外的強制力として、4つの制裁を必要とした

- | | | |
|------------------|-------------------|---------------|
| ①[⁸ |]的制裁・・・肉体の苦痛など | |
| ②[⁹ |]的制裁・・・刑罰などのルールなど | これらの制裁を与えながら、 |
| ③[¹⁰ |]的制裁・・・社会的非難など | 個人の幸福＝社会の幸福へと |
| ④[¹¹ |]的制裁・・・神罰など | 導くことが必要だと考えた |

★**最大多数の最大幸福** より多くの人が快樂を目指し行動し、その総和が多い社会を目指した

- * 立法者（議会）→社会の幸福を目的に法律を制定
- * 個人→立法者の制定した法により、自分の行為を規制する
- * 政府→政治的制裁によって、個人が社会の幸福に合致して行為するよう導く

★**パノプティコン** 功利主義にのっとった刑務所の構想

ベンサムは法律の改正に一生を捧げたが、刑務所の改善案にも情熱を注いだ。

当時の監獄や刑務所は非人道的な劣悪な環境で、罪人を苦しめ死に至らしめるものだったため、ベンサムは功利主義思想に基づき、不必要な苦しみを悪であると考え、刑務所の改善案を考案した。

その1つが「パノプティコン(円形刑務所・一望監視施設)」である。

パノプティコンは、人道的・能率的に囚人に労働を行わせながら最小の費用で監督ができる円形の構造で、効率的に監督することにより囚人の死亡率が減少すれば、管理者の収入が増すという案だった。この計画案は実現されなかったが、そのアイデアは、のちの近代社会における監獄の設計について影響を与えた。



偉人から学ぶこと

Link より多くの人を救うために

緊急医療の現場では、災害等で多数の傷病者が発生した場合、できるだけ多くの人を救うためにトリアージが行われる。トリアージとは trier（フランス語で「選び出す」という意味）を語源としており、緊急度や程度に応じてレベル分けをする作業のことを言う。日本ではトリアージタグを用いて、色により緊急度を示すことを行っており、この作業はできるだけ多くの命を救おうという**“功利主義的”**な考えに基づいている。この仕組みが必要だという意見がある一方で、一瞬での判断が難しいことや、それに伴うミスも生む可能性があり、是非が問われている。

収容医療機関用 For Medical Facilities		ETS-TAG	
No.	氏名 (Name)	年齢 (Age)	性別 (Sex)
住所 (Address)	電話番号 (Phone)		
トリアージ実施日・時刻 (Date・Time)	実施者 (Stratagem Person)	AM PM	
搬送機関名 (Conveyor)	収容医療機関名 (Medical Facilities)		
トリアージ実施場所 (Place)	<input type="checkbox"/> 医師 (Doctor) <input type="checkbox"/> 救命救急士 (Stratagemist) <input type="checkbox"/> その他 (Others)		
トリアージ実施機関 (Organization)	<input type="checkbox"/> 傷病 (Injury) <input type="checkbox"/> 病状 (Disease)		
病状 (Conditions)	<input type="checkbox"/> 軽傷 (Minor) <input type="checkbox"/> 軽重 (Medium) <input type="checkbox"/> 重症 (Major)		
トリアージ区分 (Category)	0 I II III		
0			
I			
II			
III			

Link コロナ禍での治療制限は命の選別か

ベンサムの功利主義は徹底的に平等を求めており、「誰であろうが1人以上には数えない」という言葉にその真髓が表れている。要は、王様だから、貴族だからと言って、その幸福の量は奴隷と同量量として扱われる。そこで今回、コロナ禍における治療制限について考えてみたい。例えばイタリアでは、人工呼吸器やICUが不足した場合、80歳未満に優先割当するという政策が発表された。極端な言い方をすれば、助かりにくい高齢者の命より、助かりやすい人を優先的に救うということだ。ベンサムの功利主義を基に考えれば、「より多くの命が救えるからOK」となるだろう。しかし、自分がもし医師の立場で、助かる可能性がある高齢者から呼吸器を外し、より助かりやすい人に付け替える…という行動ができるだろうか？自分の家族だとしたら納得できるだろうか？命に順位づけをする可能性もあるようなこの行為は差別として非難されるだろうか？

あなたの考えは？ → この制限は妥当 ・ この制限は差別

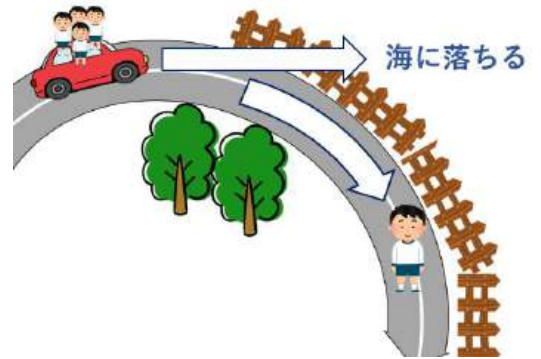
なぜそう思った？ →

妥当派の考え

差別派の考え

Think 🧠 AI 自動運転 絶体絶命！ ～あなたならどうする～

AI による自動運転の車が4人の乗客を乗せて運転中。
車体のトラブルでブレーキが効かなくなり、このままだと崖から落下してしまう…。無理にハンドルを切れば落下は回避できるが、その先にいる歩行者を1人ひいてしまう。
この時 AI にはどう判断させるべきか？
ただし、自分自身は車に乗っていないとする。



どちらを選択？ 該当する方に○を
(A)歩行者を犠牲にする・(B)このまま進んで崖から落ちる

なぜそう考えた？

他者の意見

少し聞き方を変えてみる。

A を選んだ人→「もしその歩行者があなたの大切な人だったら…？」

B を選んだ人→「もしその車にあなた一人だけが乗っていたら…？」

状況が変わってどう考えたか



ベンサムはこう考える

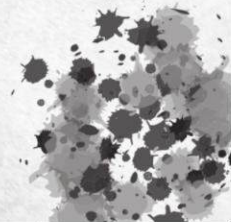
彼の功利主義は社会全体の利益が最も大きくなることが最優先。
つまり、1人の命より4人の命を救った方がいいと考えるだろう。
例えそれが故意的であっても、結果を考えれば1人の命を奪うことは正当化される。
仮にその1人が自分自身や彼の家族であったとしても、その考えは変わらない。
特定の誰かを優先させることは許されないからだ。動機よりも結果重視。
ここまで徹底したからこそ、彼の思想は後世に残っているのかもしれない。

Comment 🗨 授業の感想や質問・疑問点など書く内容は自由です。



ジェレミ・ベンサム

～ 功利主義の創始者 ～



時代背景

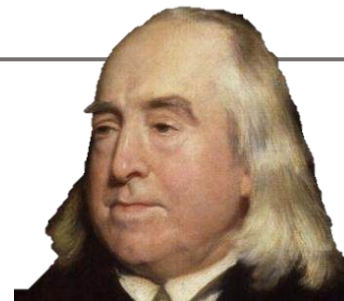
産業革命に成功したイギリスは世界一の資本主義国家へと躍進していた。資本家が利潤追求に必死になる中、個人の利益や幸福を積極的に追求することを正当化し、それらが社会全体の幸福へ繋がる理論を展開した。この考え方を^[1] **功利主義** という。個人の自由を最大限に認め、行為の結果を重視するものであった。

偉人の生涯

Bentham (1748～1832) イギリス 哲学者・法学者

主 著 『道徳及び立法の諸原理序説』『政府論断片』

Keyword ^[2] **最大多数の最大幸福** 「快樂計算」「制裁(サンクション)」



生 涯 イギリスに法律家の子として生まれる。裕福な家庭で生まれた彼は家の本を読み漁り、神童と呼ばれた。若干 15 歳で名門オックスフォード大学で文学士を取得し、3 年後には文学修士の称号も取得。さらに 21 歳で弁護士の資格を取得するなど、超優秀であったと知られている。しかし、イギリスの王座裁判所の腐敗を見た彼は、判事の主観が入りやすい判例法の伝統に疑問を持ち、より客観的な立法の原理が必要と考えた。法律を実践するのではなく、法律を作成する側になることを決め、人生を法律への批判と改良に捧げた。

ベンサムは、より多くの快樂が満たされた社会を最も幸福であると考えた。彼の功利主義の考えは、平等が重視され、当時刑罰の対象であった^[3] **同性愛** を正当化したり、^[4] **選挙権** の拡大運動に尽力するなど、政治改革に努めた人物であった。また、彼は生涯、医学の発展に寄与したいと強く願っていた。当時の人にとっては絶対に有り得ない行いだっただ死後解剖を、彼は積極的に奨励した。理由は**功利主義を貫いた男**だったから。彼は、人間は死体と化す事で幸福度の概念も関係がなくなるとした。むしろ解剖によって医学が前進し、今苦しんでいる人や医療に貢献できれば、人類全体の幸福度は上昇すると結論付けたのだ。まさに、功利主義の正義。

今では一部復元されながらも、ロンドン大学に彼のミイラが保存されており、一般人でも見る事が可能である。

思想概要 ベンサムは、善悪の判断基準を「快樂をもたらす行為を善、不幸を生み出すものを悪」と考えた。^[5] **快樂計算** によって快樂を計算し、より快樂の多い行為をすべきと考えた。個人の快樂が自己中心的になりすぎると、社会に悪影響を与える場合もあるので、個人の快樂が社会全体の幸福に一致するように、^[6] **制裁** (サンクション) という外的強制力を必要とした。その上で、より多くの快樂が満たされた社会を最も幸福であると考え、これを^[7] **最大多数の最大幸福** といい、選挙権拡大運動の理論的根拠になったと言われる。彼は功利主義を極限までつきつめ、平等を求め続けた人物であるといえる。

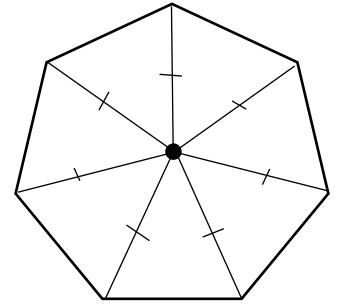
偉人の功績・思想

★**快樂計算** ある行為が個人に対して生み出す快樂・苦痛の価値を、7つの基準で算出する

Work  **ベンサムの快樂計算をやってみよう！！それぞれ10点満点とする。**

あなたの快樂を感じるもの（こと）→

- ①強度・・・快樂の強さ
- ②持続性・・・どれだけ長続きするか
- ③確実性・・・どれだけ確実に達成できるか
- ④遠近性・・・どれだけ近い将来訪れるか
- ⑤多産性・・・別の快樂を連鎖的に生み出すか
- ⑥純粹性・・・他の苦しみが混じっていないか
- ⑦適用範囲・・・どれだけ多くの人に影響を与えるか



あなたの快樂は・・・ 点

★**制裁(サンクション)** 外的強制力として、4つの制裁を必要とした

- | | |
|--|---------------|
| ① ^[8] 物理]的制裁・・・肉体の苦痛など | |
| ② ^[9] 政治]的制裁・・・刑罰などのルールなど | これらの制裁を与えながら、 |
| ③ ^[10] 道德]的制裁・・・社会的非難など | 個人の幸福＝社会の幸福へと |
| ④ ^[11] 宗教]的制裁・・・神罰など | 導くことが必要だと考えた |

★**最大多数の最大幸福** より多くの人が快樂を目指し行動し、その総和が多い社会を目指した

- * 立法者（議会）→社会の幸福を目的に法律を制定
- * 個人→立法者の制定した法により、自分の行為を規制する
- * 政府→政治的制裁によって、個人が社会の幸福に合致して行為するよう導く

★**パノプティコン** 功利主義にのっとった刑務所の構想

ベンサムは法律の改正に一生を捧げたが、刑務所の改善案にも情熱を注いだ。

当時の監獄や刑務所は非人道的な劣悪な環境で、罪人を苦しめ死に至らしめるものだったため、ベンサムは功利主義思想に基づき、不必要な苦しみを悪であると考え、刑務所の改善案を考案した。

その1つが「パノプティコン(円形刑務所・一望監視施設)」である。パノプティコンは、人道的・能率的に囚人に労働を行わせながら最小の費用で監督ができる円形の構造で、効率的に監督することにより囚人の死亡率が減少すれば、管理者の収入が増すという案だった。この計画案は実現されなかったが、そのアイデアは、のちの近代社会における監獄の設計について影響を与えた。



偉人から学ぶこと

Link より多くの人を救うために

緊急医療の現場では、災害等で多数の傷病者が発生した場合、できるだけ多くの人を救うためにトリアージが行われる。トリアージとは trier（フランス語で「選び出す」という意味）を語源としており、緊急度や程度に応じてレベル分けをする作業のことを言う。日本ではトリアージタグを用いて、色により緊急度を示すことを行っており、この作業はできるだけ多くの命を救おうという“功利主義的”な考えに基づいている。この仕組みが必要だという意見がある一方で、一瞬での判断が難しいことや、それに伴うミスも生む可能性があり、是非が問われている。

緊急医療施設用 ETS-TAG For Medical Facilities		
No.	氏名 (Name)	年齢 (Age) (性別 Sex)
住所 (Address)	搬送 (Ref)	
トリアージ実施月日・時刻 (Date・Time)	搬送者 (Escort Person)	
AM PM		
搬送機関名 (Conveyor)	医療機関名 (Medical Facilities)	
トリアージ実施場所 (Place)		
トリアージ実施機関 (Organization)	<input type="checkbox"/> 救急 (Rescue) <input type="checkbox"/> 救急隊 (Emergency Team) <input type="checkbox"/> その他 (Other)	
搬送者 (Conductor)	<input type="checkbox"/> 搬送 (Escort) <input type="checkbox"/> 搬送 (Escort)	
トリアージカテゴリー (Category)	0 I II III	



Link コロナ禍での治療制限は命の選別か



ベンサム功利主義は徹底的に平等を求めており、「誰であろうが1人以上には数えない」という言葉にその真髓が表れている。要は、王様だから、貴族だからと言って、その幸福の量は奴隷と同等量として扱われる。そこで今回、コロナ禍における治療制限について考えてみたい。例えばイタリアでは、人工呼吸器やICUが不足した場合、80歳未満に優先割当するという政策が発表された。極端な言い方をすれば、助かりにくい高齢者の命より、助かりやすい人を優先的に救うということだ。ベンサムの功利主義を基に考えれば、「より多くの命が救えるからOK」となるだろう。しかし、自分がもし医師の立場で、助かる可能性がある高齢者から呼吸器を外し、より助かりやすい人に付け替える…という行動ができるだろうか？自分の家族だとしたら納得できるだろうか？命に順位づけをする可能性もあるようなこの行為は差別として非難されるだろうか？

あなたの考えは？ → この制限は妥当 ・ この制限は差別

なぜそう思った？ →

妥当派の考え ・ 緊急事態である以上、より多くの命を救う手段を否定できない

・ 命の助かりやすさの他にも、その後の社会で出産したり労働する年代を優先することは正しい

差別派の考え ・ 命に順番を付けてしまう行為は人として許されない

・ 医師の手で呼吸器を付け替える行為は、殺人と批判されても仕方がない

Think 🧠 AI 自動運転 絶体絶命! ~あなたならどうする~

AI による自動運転の車が 4 人の乗客を乗せて運転中。
車体のトラブルでブレーキが効かなくなり、このままだと崖から落下してしまう…。無理にハンドルを切れば落下は回避できるが、その先にいる歩行者を 1 人ひいてしまう。
この時 AI にはどう判断させるべきか?
ただし、自分自身は車に乗っていないとする。



どちらを選択? 該当する方に○を
(A)歩行者を犠牲にする・(B)このまま進んで崖から落ちる

なぜそう考えた?

他者の意見

少し聞き方を変えてみる。

A を選んだ人→「もしその歩行者があなたの大切な人だったら…?」

B を選んだ人→「もしその車にあなた一人だけが乗っていたら…?」

状況が変わってどう考えたか



ベンサムはこう考える

彼の功利主義は社会全体の利益が最も大きくなることが最優先。
つまり、1 人の命より 4 人の命を救った方がいいと考えるだろう。
例えそれが故意的であっても、結果を考えれば 1 人の命を奪うことは正当化される。
仮にその 1 人が自分自身や彼の家族であったとしても、その考えは変わらない。
特定の誰かを優先させることは許されないからだ。動機よりも結果重視。
ここまで徹底したからこそ、彼の思想は後世に残っているのかもしれない。

Comment ☞ 授業の感想や質問・疑問点など書く内容は自由です。